

# タネ集めは一日にしてならず

自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

黒田有寿茂



植物の果実や種子、いわゆる「タネ」を使って何をするかは人それぞれですが、私はよく発芽試験をします。発芽試験は、タネがどのような条件下でよく根や芽を出すか、などを探るための試験ですが、その試験を行うためには、まずタネをある程度集めなければなりません。

タネを集めるのにかかる労力は、植物の生えている場所や種類・量などによって様々です。近所であれば集めやすいでしょうし、遠くであれば行くだけで時間がかかります。遠方であっても、そこに多く生育している植物であればきっと集めやすいでしょう。逆に、生えている数が少ない植物であれば、さらに苦労しそうです。

花が咲いて実を結んだ後、タネがどのくらいの期間で熟し、離れるのか、といった情報も重要です。図鑑などで花の時期を確認し、ある程度の見当をつけるのですが、早かったり遅かったり、ドンピシャのタイミングにはなかなか当たりません（たまに当たるときもあります）。

タネを集めるためには、結局のところ、時期を変えて何度も見に行くことになります。その中で、タネが実際に採集できるのは一時期ですが、では、それ以外は無駄足になってしまうのでしょうか？ いえ、もちろんそんなことはありません。どんな個体が、いつどのような環境下で花を咲かせ、そしてタネがどのように熟し、散布されるのか——そうした植物の生活史や生態を知る重要な機会にもなるからです。

